

20歳から始める 子宮頸がん検診

子宮頸がんの
原因はなに？

まだ若いから
受診しなくても
大丈夫？

子宮頸がん検診は
何をするの？



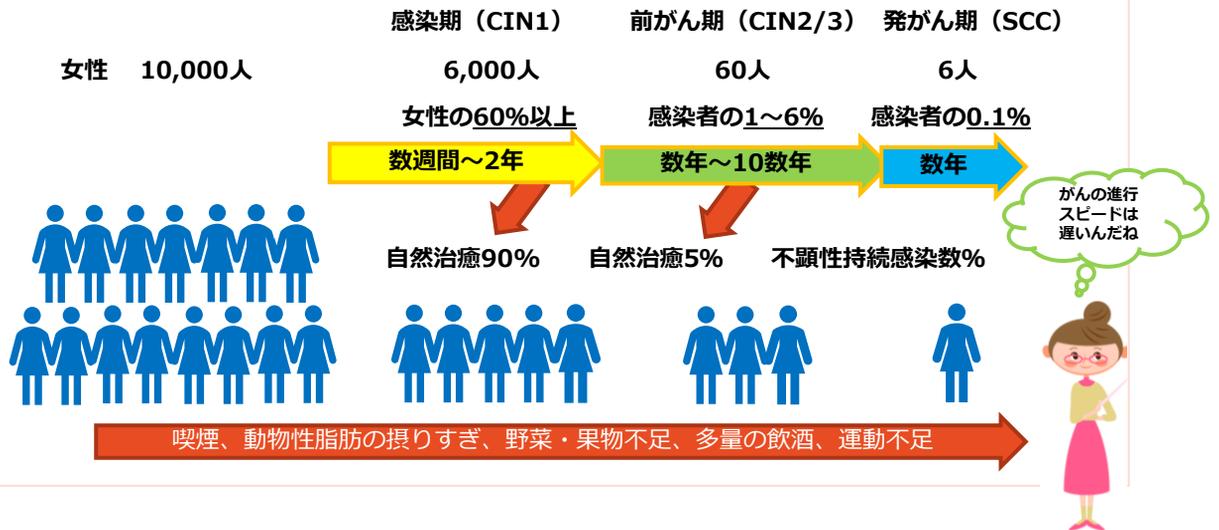
子宮頸がんについて
一緒に考えてみましょう



Q. 子宮頸がんの原因はなに？

A. ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因です。

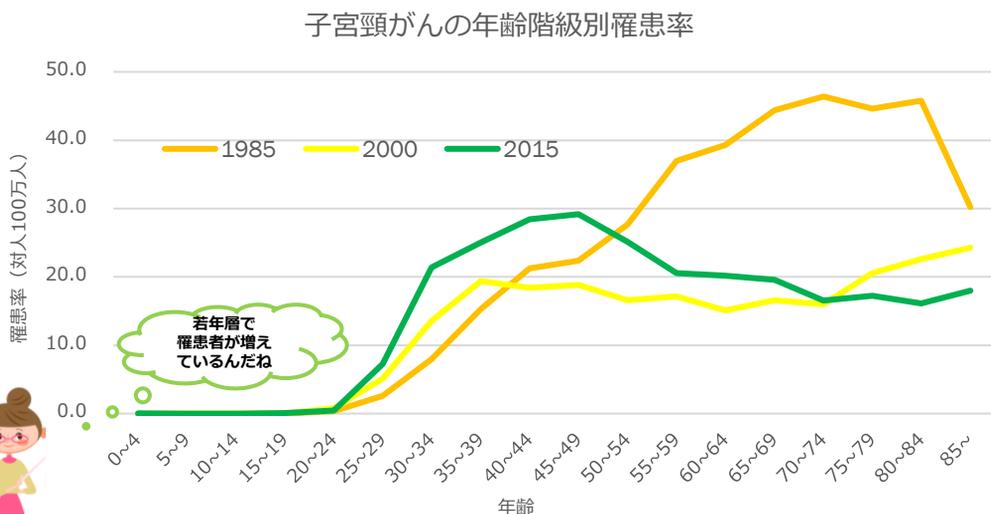
HPV感染は性交渉を経験したことがある女性の80%が感染すると言われていいます。しかし、感染したとしても多くの場合は免疫機能が働いて自然に体から排除されます。しかし、排除されず、ウイルスが子宮頸部に残り、長い間感染が続いた場合、その部分の細胞からがん化し、子宮頸がんを発症すると言われていいます。がん化を進行させるものとして喫煙、動物性脂肪の摂りすぎ、野菜・果物不足、多量の飲酒、運動不足などがあることが知られています。



Q. まだ若いから受診しなくても大丈夫？

A. 20歳から子宮頸がん検診は必要です。

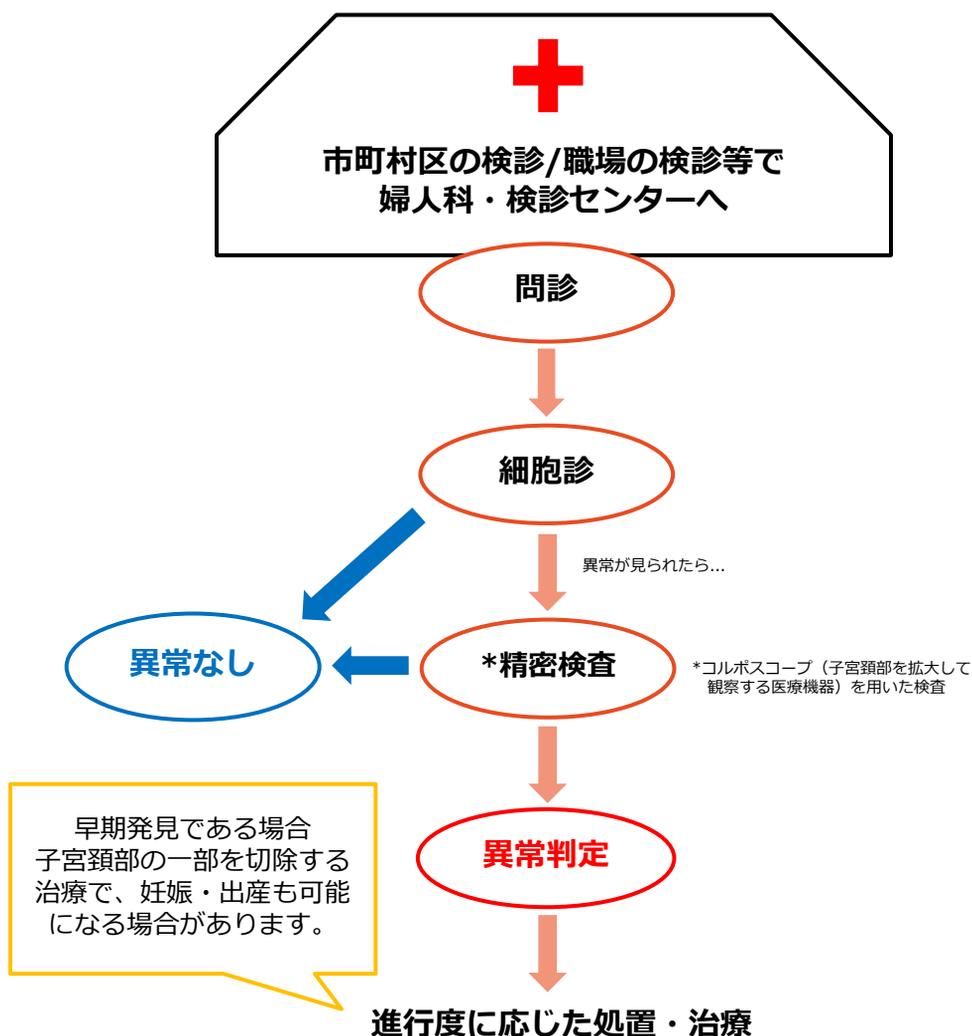
以前は子宮頸がんの罹患者は40代以上が大半でしたが、近年は初交年齢の低年齢化などの影響により20～30歳代で子宮頸がんの罹患者数が増加しています。日本では年間約39,000人が罹患し、年間約2,900人が死亡しています。(1日当たり8人が子宮頸がんが原因で亡くなっているような状況...)



参照：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん罹患モニタリング集計（MCIJ））

Q. 子宮頸がん検診ではなにをするの？

A.細胞診検査（子宮頸部からブラシを使って細胞を採取する）を行い、子宮頸部に異常があるか判断します。必要に応じて精密検査を行うこともあります。



子宮頸がんを予防するためにできることは？

子宮頸がんは進行が遅く、がんの一手手前（前がん病変）で見つけることは可能です。しかし、子宮頸がんの初期段階では症状が見られないことが多く、不整出血や下腹部の痛みなどが生じたときには、すでにがん化が進行した状態であることが多いです。

定期的な検診が異常の早期発見につながります
異常なしでも、2年に1度検診を受けましょう

